

滞日外国人家族に対する多文化ソーシャルワークに関する研究

ライフデザイン学部 生活支援学科 子ども支援学専攻

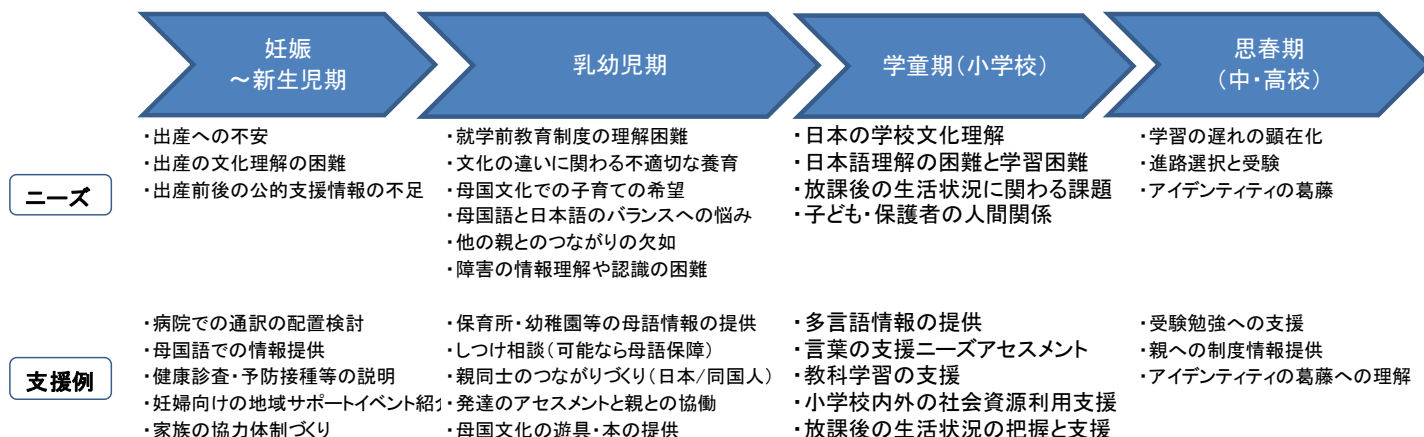
南野 奈津子 教授 Natsuko Minamino



研究概要 滞日外国人、特に移住外国人女性や子どもの福祉課題を主な対象として、日本の制度や社会福祉サービスの実情を踏まえ、多文化ソーシャルワークの研究を行っている。

研究シーズの内容

滞日外国人が様々な社会的不利を抱える背景には、日本の法制度が近年の移住者に対応し得るものになっていないこと、支援人材の養成が遅れていることなどに加え、文化的な壁、日本国内の福祉課題、さらには日本国内での外国人コミュニティの形成状況などの多様な要素が影響を与えている。親の課題は、子どもの各ライフステージにおける困難と連動しながら生じており、そのことは子どもの家族生活のみならず教育、進学、アイデンティティの問題となって表出する。これらの実情は「外国人の子ども白書」(明石書店, 2017)において詳細が示されている。



それぞれのライフステージにおいて起きる福祉課題の中でも、子どもや女性が抱える不利や排除への対処は喫緊の課題である。福祉課題を抱える外国人女性に対する調査は、DV被害経験を有する率の高さのみならず、貧困、養育問題を抱えやすい。多様な文化背景をもつ子どもや家族に対し、個別的な支援のみならず、地域で様々な人材や組織が関与しながら支える体制作りが重要課題である。

これらの諸課題について調査を進め、移住者に対する支援制度やソーシャルワーク実践に関する提言を行っている。



研究シーズの応用例・アピールポイント

多文化共生の促進が求められ、また、社会の不平等の解消に組むといった目標を含む SDGsの達成が求められる現在において、これらの知見は保育、教育、医療、保健、及び多文化共生推進に関連する領域に関わる関係者がどのように外国人の福祉問題に取り組む必要があるか、に関する情報を提供するといえます。

特記事項(関連する発表論文・特許名称・出願番号等)

『いっしょに考える外国人支援』(2020年 編著)明石書店

『外国人の子ども白書』(2017年 共編著) 明石書店 他

